



シンポジウムの模様



挨拶 川本 強 会長



挨拶 鈴木 博
東京都学校歯科医学会会長

「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
—学校での新しい生活様式—



令和3年10月21日(木) 第85回全国学校歯科保健研究大会が、大会史上初のWEB上でのライブ配信により、東京・有楽町朝日ホールを配信場所として開催された。なお、領域別研究協議会(5領域)については、ライブ配信終了後から「オンデマンド配信」において行われた。今大会の主題『「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して』、副題「学校での新しい生活様式」のもと、新型コロナウイルス感染症予防に対応した取組や健康教育について講演や研究発表が行われた。

開会式・表彰式

当日は14時から齋藤秀子副会長による開会の言葉があり、国歌斉唱が行われた。引き続き、主催者を代表として、末松信介文部科学大臣(代理：伯井美德初等中等教育局長)、川本強会長、(公社)東京都学校歯科医学会の鈴木博会長、(公財)日本学校保健会の中川俊男会長(代理：弓倉整専務理事)から挨拶があった。次に、後藤茂之厚生労働大臣(代理：小椋正之医政局歯科保健課長)、(公社)日本歯科医師会堀憲郎会長(代理：佐藤保副会長)が祝辞を述べた後、臨席を賜った来賓が紹介された。



開会の言葉 齋藤秀子 副会長



表彰式(第60回全日本学校歯科保健優良校表彰)



閉会の言葉 野村圭介 副会長

第60回
全日本学校歯科保健
優良校表彰



伯井美德 初等中等教育局長による
優秀賞(文部科学大臣賞)の授与



川本強 会長による
日本学校歯科医会会長賞の授与



佐藤保 日歯副会長による
日本歯科医師会会長賞の授与

表彰式に移り、第60回全日本学校歯科保健優良校表彰が行われた。優秀賞(文部科学大臣賞)は7校、日本学校歯科医会会長賞は8校、日本歯科医師会会長賞は9校、奨励賞は65校がそれぞれ受賞され、文部科学省の伯井美德初等中等教育局長、川本強会長、(公社)日本歯科医師会の佐藤保副会長から賞状・記念品が授与された。全受賞校を代表して、東京都立中野特別支援学校の和田慎也校長が謝辞を述べた。その後、祝電が披露され、野村圭介副会長が閉式の言葉を述べた。

特別講演

15時15分から「芸術と解剖学の間に」の演題で、東京藝術大学美術学部美術学科美術解剖学研究室の布施英利教授による特別講演が行われた。

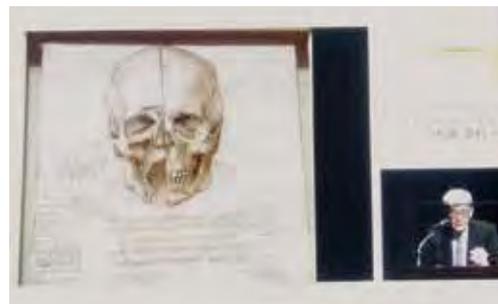
布施教授は、500年前に没したルネサンス時代の画家レオナルド・ダ・ヴィンチを自身の第一の研究テーマとしてきた。ダ・ヴィンチは画家として美術の制作・研究をしただけでなく、解剖学や地質学、植物学、天文学、数学などの研究もしていたが、当日は歯科医療関係者が多いということで解剖学のお話をしていただき、ダ・ヴィンチの歯の図についても改めて集めて紹介していただいた。500年前の当時では誰もやっていない頭蓋骨や歯や口唇の正確な描写をしている図が多数紹介され、僧帽筋や三角筋の図も紹介されたが、その精密な描写に驚かされた。そのような遺体の解剖事例は30事例ほどあったと言われているが、視覚的に筋肉だけをピックアップして描写することによ

り、更に綺麗で美しい描写となっているとのことである。

このような解剖図を描いたあるいは解剖を研究したダ・ヴィンチが、絵画とどう結びついたのでかの一例として「最後の晩餐」が紹介された。ドイツとイタリアでは顔の表情や身振り手振りが異なるため、この絵についてゲーテが「イタリアならではの作品である」と評したという逸話や、解剖学的に「手首を回す」ことを「きらきら星」の歌になぞらえて、親指の位置で尺骨と橈骨の状態を説明し、回内と回外がその作品にいかに反映されているのかが説明された。優れた芸術には、考えられないくらいの複雑さと全体的には驚くべきシンプルさがあるものであり、「最後の晩餐」は、それが同時にまとめられている奇跡の絵画である。芸術が芸術である由縁は、ひも解けば解剖学であるとも話された。

東京藝術大学美術学部の前身である東京芸術学校では、3年間であるが森鷗外がドイツ帰国後に解剖で教鞭を執ったことがあることや、解剖学者の三木成夫は、同大学での授業で「人は緊張すると息ばかり吸ってしまうが、行き詰まる時には、逆に息を吐くということが息抜きとなる」と唱えていた。また、大便是「大きな便り」とも書くが、これはどこからの便りなんだろうかと考えると、三木成夫流に言えば大便是内臓を通ってきた痕跡である。実際に握らなくてもよいが、「ウンチを握れ! (実際に教壇で三木が叫んだ言葉)」とは、大便是人間、宇宙、生命の根源的なもので、芸術を志す人間は根源的なそこに焦点を当てようと言っているのであり、芸術大学で解剖学をいまだに伝えている根幹であると話された。

特別講演
「芸術と解剖学の間に」



東京藝術大学美術学部美術学科美術解剖学研究室の布施英利教授による講演

シンポジウム

『『生き抜く力』をはぐくむ
歯・口の健康づくりの
展開を目指して～学校
での新しい生活様式』



座長
柘植紳平 副会長



基調講演 講師
寺嶋 毅 東歯大教授



シンポジスト
馬場久美子 文科省係長



シンポジスト
小林幸恵 全養協会長



シンポジスト
柴田 宏 理事

シンポジウム

16時30分から、柘植紳平副会長の座長のもとで『『生き抜く力』をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して～学校での新しい生活様式』をテーマにシンポジウムが行われた。

基調講演では、東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科の寺嶋毅教授が、「COVID-19流行下における歯と口の健康づくり～新しい生活様式との両立」をテーマに講演された。シンポジストとして、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課がん教育推進係の馬場久美子係長と、全国養護教諭連絡協議会小林幸恵会長が、それぞれ『『学校での新しい生活様式』を踏まえた学校歯科保健の実現』を、柴田宏理事が「新しい生活様式における学校歯科保健の取組～一生よい歯（生涯28）をめざして～」を18時30分まで発表された。

基調講演の寺嶋毅教授は、マスク着用には社会全体の感染拡大抑制効果があり、口腔内の衛生状態を保つことは、ウイルス感染を防ぐことにつながると講演された。そして、ワクチン接種が普及しても、変異株の影響により当面は感染対策の継続、ワクチン接種と感染対策の併用が必要と考えられる。COVID-19流行下における新しい生活様式においても歯と口の健康づくりが一層大切であると強調された。

シンポジストの馬場久美子係長からは、学校においては、地域の感染状況を踏まえ、学習活動を工夫しながら、可能な限り、学校活動を継続し、児童生徒の健やかな学びを保障してゆくことが重要であると述べられた。また、シンポジストの小林幸恵会長は、学校における新型コロナウイルス

感染症の対応、学校歯科保健活動の取組、コロナ禍の児童生徒の歯・口腔に関する健康課題を発表し、学校保健の中心的な役割を果たしている養護教諭は、専門性を高め、学校保健の充実と推進を図ってゆくことが重要であると述べた。柴田宏理事からは、学校での歯科保健の現場でも「コロナ感染が怖いから」と給食後の歯みがきやフッ化物洗口をすぐに中止するというのではなく、「感染リスクはゼロにはならない」ということを受け入れた上で、新しい生活様式の中で継続する工夫をし、子供たちに健康の大切さを教えていくことが学校保健教育の本来の姿であると力説された。

ポスター発表

鹿児島県立曾於高等学校、(公社)日本矯正歯科医会、大手前短期大学歯科衛生学科、(公社)東京都学校歯科医会、フォレストキッズ保育園、知多郡歯科医師会による6点のポスター発表がWEBにて行われた。

閉会式

18時30分から閉会式に移り、次期開催地報告が川本強会長からあり、川本強会長と(一社)山梨県歯科医師会の三森幹夫会長の間で「学校歯科の鐘」の引継ぎが行われた。その後、次期開催地代表挨拶として三森幹夫会長が述べられ、次期開催地の紹介映像がスクリーンに映し出された。最後に、柘植紳平副会長が閉会の言葉を述べて大会を閉じた。

(広報委員会副委員長・高橋裕幸)



閉会の言葉 柘植紳平 副会長



『学校歯科の鐘』の引継ぎ 川本 強 会長(左)と三森幹夫 山梨県歯会会長(右)

第85回
全国学校歯科
保健研究大会

領域別研究協議会

第85回全国学校歯科保健研究大会の領域別研究協議会(5領域)は、ライブ配信終了後から令和3年11月21日(日)23:59までオンデマンド配信された。

幼稚園・認定こども園・保育所
部会

- 座長 水谷成彦理事
- 発表者①
健康な心と体(口腔)について自ら考える子
を指して～園での新しい生活様式～
荒川区立汐入こども園・大山祐子園長
- 発表者②
継続した歯みがき指導と一人一人に寄り添っ
た支援や啓発活動に取り組む
大阪市立日東幼稚園・山中理恵子指導養護
教諭
- アドバイザー
新しい生活様式における口腔機能の発達支
援
神奈川歯科大学歯学部小児歯科学講座・木
本茂成教授



小学校
部会

- 座長 平瀬久義理事
- 発表者①
ひびきあい・つながる・ひろがるは(歯)っぴー
活動 with コロナ～幸せ・楽しさ・アイデアいっ
ぱい歯・口の健康づくり～
美濃加茂市立太田小学校・稲垣章子養護教
諭
- 発表者②
健康課題を自ら解決し、行動できる子供の育
成～学校・家族・地域が共に歩む歯・口の
健康づくりを通して～
二戸市立金田一小学校・梅津美里養護教諭
- アドバイザー
「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの
展開を目指して
鶴見大学歯学部小児歯科学講座・朝田 芳信
教授



領域別研究協議会
(オンデマンド配信) 小学校部会を視聴して

小学校部会では、平瀬久義理事を座長に、鶴見大学歯学部小児歯科学講座の朝田芳信教授をアドバイザーとして、小学校2校から研究発表があった。

まず、朝田芳信教授から、アドバイザーによる導入として『「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して～学校での新しい生活様式～』の演題で講演があった。「新型コロナウイルス感染症と口腔保健の関わり」では、日常生活の変化などの影響で生活リズムが乱れてしまう児童生徒は少なくない。学校歯科健康診断においては、口腔内環境の変化が著しい児童生徒に対しては、生活習慣の見直しを含め、口腔衛生習慣の重要性を再認識してもらい、自律的健康づくりを意識した指導を行う必要がある。歯や口腔の健康づくりは、食生活や歯みがきの習慣など生活の基盤である家庭との関連が強く、健康維持には家庭の関わりが重要であり、学校と家庭がより連携を深め、口腔疾病予防に取り組むことが肝要であると述べられた。新型コロナウイルス

感染症をはじめとする各種の感染症を防ぐことが、児童自身のみならず、大事な家族や友人の命を守ることに繋がることを理解して実践することが大切である(=感染予防を意識した生活様式)。口腔の健康が感染予防に繋がることを意識した歯や口の健康づくりを実践することがより大切になる(=疾病予防や口腔機能の育成を意識した生活様式)。以上の2つを学校での新しい生活様式で実践していただきたいと結んだ。

引き続き、研究発表として「健康課題を自ら解決し、行動できる子供の育成～学校・家族・地域が共に歩む歯・口の健康づくりを通して～」が二戸市立金田一小学校の梅津美里養護教諭から行われた。

初めに、小学校6年生のDMFT指数の年次推移グラフが紹介された。平成15年には0.9本だった6年生のDMFTは年々減少し、今年度は0本となった。地域一体となった取組は、小学校という枠組にとらわれず、9年間の発達段階に応じた系統的な指導の実現につながった。実際的な取組としては、

合同学校保健委員会(すこやか会議)と地区学校保健委員会を軸として家族・地域との連携を図る。また、歯科保健指導(学校歯科医・歯科衛生士との連携、全国小学生歯みがき大会への参加、歯と口の健康に関する図画ポスター、標語コンクールへの参加、給食後の歯みがきタイム)・食に関する指導(給食センター栄養教諭との連携、二戸市管理栄養士との連携)・口腔機能に関する指導(かみかみ運動、口輪筋トレーニング)・年3回の歯科健康診断と事後措置の工夫・朝ぶくタイム(フッ化物洗口)・児童保健委員会活動(歯みがき楽しもう隊、取組の発表)・家庭との連携(親子バランボール教室の開催、「わたしの健康チャレンジ」



アドバイザーの朝田芳信教授(左)と座長の平瀬久義理事(右)

中学校 部会

- 座長 佐々木貴浩常務理事
- 発表者①
主体的に活動する生徒の育成を目指した歯科保健活動～自分の健康は自分で守ろう～熊谷市立富士見中学校・中島良子養護教諭
- 発表者②
「歯と口の健康を守ることで、生涯健康で生き抜くことのできる生徒の育成をめざして」加須市立加須平成中学校・青木美子養護教諭
- アドバイザー
歯と口の健康に関する中学生の意識・特徴～「生きる力を育む学校での歯・口の健康づくり推進事業」アンケート調査結果から 日本大学歯学部衛生学講座・川戸貴行教授



高等学校 部会

- 座長 吉岡弘二理事
- 発表者①
より効果のある学校歯科保健指導を目指して～学校での新しい生活様式の確立に向けて～岩手県立大東高等学校学校歯科医・熊谷 博伸氏、岩手県立大東高等学校 内館 優香養護教諭
- 発表者②
ブラッシング指導の取組と展望 香川県立善通寺第一高等学校・琢磨美生養護教諭
- アドバイザー
新型コロナウイルス感染症流行下での学校歯科保健を考える 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野・相田潤教授



特別支援教育 部会

- 座長 今井健二常務理事
- 発表者①
本校の歯科保健活動～健康な生活、社会自立を目指して～千葉県立特別支援学校流山高等学園・須田浩美養護教諭
- 発表者②
特別支援学校の子供の実態に応じた歯科保健活動～将来を見据えた歯科保健の取組～宮崎県立延岡しろやま支援学校・内山優子養護教諭
- アドバイザー
「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が拓く新しい特別支援教育と歯科保健 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門・弘中祥司教授



の取組、歯みがきカレンダーと歯の汚れ調べ)などの取組を通じて歯と口の健康づくりの紹介がされ、大変興味を引く内容であった。

次に、美濃加茂市立太田小学校の稲垣章子養護教諭から「ひびきあい・つながる・ひろがる は(歯)っぴー活動withコロナ～幸せ・楽しさ・アイデアいっぱい歯・口の健康づくり～」の研究発表があった。同校が年間を通して実践している「はっぴー活動の4本柱」にwithコロナ対策も併せて紹介された。具体的には、

- (1) ひびきあう「保健教育」
 - 1) 歯みがきタイム
 - 2) 「主体的・対話的で深い学び」の学習
- (2) 自分と向き合う「保健管理」
 - 1) 集団と個別を取り入れた歯科健康診断
 - 2) むし歯治療率100%を目指す取組
 - 3) 一斉歯みがき・フッ化物洗口
 - 4) あいうべ体操
 - 5) ハイリスク児童への特別な指導
- (3) 連携の輪をつなぐ「組織活動」
 - 1) 見本となる歯ブラシの配布
 - 2) HP・健康アプリの活用
 - 3) 歯・口の健康づくり標語・イラスト募集

- (4) ひろがる「はっぴー活動」
 - 1) 自己肯定感を高める「はっぴー賞」
 - 2) 伝統をつなぐ取組
 - 3) 児童保健委員会
 以上のアイデアいっぱいの取組の4つの柱について、具体的な活動内容が懇切丁寧に説明された。

研究発表後のディスカッションでは、朝田教授から梅津美里養護教諭への「実際に活動してきてどんな課題が出てきて、今後につなげていきたいことは何であるのか」の問いに対して、「コロナ禍で在宅時間が増えたことにより、メディアなどのゲーム使用時間が増えて生活習慣の乱れが課題となった。対応としては兄弟の通う中学校とも連携して、メディアコントロールへの取組で家庭への呼びかけを行ったのが有効であった」と報告がされた。

朝田教授からも「在宅時間が多くなることで起きる問題は、学校と家庭との連携が大切になってくる」と講評があった。

「コロナ禍でのマスク生活の長期化で子供たちの健康が危惧されていたが、補足して今後のどのように展開されていくのか」との稲垣章子養護教諭への問いに対しては、



発表者①の梅津美里養護教諭(右)と発表者②の稲垣章子養護教諭(左)

「コロナ禍で「からだ」と「こころ」の両面に変化が出ていると考えているが、「からだ」に関しては先程に述べた対応をしておき、「こころ」に関しては、その時々で状況に応じて個別の対応している」との報告があった。

最後に、座長のまとめとして平瀬久義理事から謝辞が述べられるとともに、コロナ禍における学校での新しい生活様式として、「地域との連携」や「はっぴー活動の4本柱」を紹介や、今後の新たな学校歯科保健活動を模索しての新たなメッセージを示していただき、感動と敬意を抱いた。今後もどんな環境下でも学校歯科保健発展のためにできることから行うという心構えで頑張っていかなければいけないと結び、閉会となった。(広報委員会副委員長・高橋裕幸)

令和3年度

全国学校保健・安全研究大会

第71回

全国学校歯科医協議会 岡山県

令和3年度 全国学校保健・安全研究大会

本大会は、令和3年10月28日(木)・29日(金)に岡山県の「ピュアリティまきび」を会場としてWEB開催され、約1,800名の方が参加された。主題を「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進 ～自他の健康で安全な生活の実現に向けて、主体的に取り組むことができる子供の育成～」として、諸課題について研究協議が行われた。

28日13時からの開会式では、文部科学省の三谷卓也文部科学戦略官、日本学校保健会の弓倉整専務理事、岡山県教育委員会の鍵本芳明教育長から開会の挨拶がなされた。表彰式では令和3年度学校保健表彰(文部科学大臣表彰)が行われ、岡山県立曾根小学校の学校医である星島昭先生が代表として謝辞を述べられた。

全体会記念講演は「新型コロナウイルス感染症の現状と今後」と題して、昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門客員教授の二木芳人先生による講演がなされた。講演では、日本国内や世界の現状について、巨大な波となった第5波の原因と、その後の感染者数減少の理由について、国内の感染収束に向けて必要な項目と課題について解説された。

29日の課題別研究協議会では10課題について協議された。その中で歯科と関連がある第5課題「歯・口の健康づくり」の協議内容について紹介する。研究協議題は「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」であり、(公社)日本学校歯科医会の柘植紳平副会長を講師とし、横浜市教育委員会事務局小中学校企画課の根岸淳課長、文部科学省の横嶋剛健康教育調査官を指導助言者(コーディネーター)として話し合われた。

研究発表として3演題の発表があり、その中の鹿児島県立曾於高等学校養護教諭の實方めぐみ先生の発表は「健康課題に向き合い、自己解決できる生徒の育成」として、歯科健康診断の結果をもとに生徒自身が記録、集計することで歯の健康への意識が高まったことが紹介された。また、保健委員による各クラスでの歯科指導の実施について述べ

られ、さらに委員会活動として近隣小学校での歯科衛生指導を行った経験等が生徒の自信となり、歯科衛生士専門学校への進学、その後の主体的な活動につながったことが紹介された。文部科学省の横嶋健康教育調査官からは、発表された先生方の計画内容・指導は新学習指導要領のカリキュラムマネジメントにあたり、指導要領改定に合致した素晴らしい発表であったとの総評があった。横浜市教育委員会の根岸課長からは、今回の学習指導要領改訂について、何を教えるかというところで止まるのではなく、何が身に付いたかをしっかり見ていくこと、そして指導において子供たちが主体的に学べる工夫をし、さらに共同的に進めていくことで生きる力に繋げていくことが非常に大事であると指導助言された。

最後に、柘植副会長から「健康は歯から口から笑顔から『新しい生活様式』に沿った学校での歯・口の健康づくりの進め方」と題して講義があった。その中で、これからは基本的な感染症対策の継続をしながら効果的に歯科保健教育を進めていくことが重要だと述べられた。そして学校での昼食後の歯みがきについては、口腔内の衛生を保つことはウイルス感染予防の基本であることを踏まえ、今後も継続して行うことが重要であり、(公社)日本学校歯科医会が作成したポスターや動画を参照して実施することを推奨された。また熱中症予防の対策として、(公社)日本学校歯科医会が作成したポスターを参考に、スポーツドリンクは実は水分吸収率が悪いこと、熱中症になる前であれば水やお茶を飲むほうが効果的でむし歯予防にもなることを紹介された。そして、歯科保健をもう一步進めるためには指導者自身が楽しむこと、指導者自身が課題を解決していくことが子供たちの生きる力を育むことに繋がることを述べられた。研究発表、講義ともに本議題の趣旨に沿った素晴らしい内容だった。

次年度は岩手県で令和4年11月10日(木)・11日(金)に開催予定である。

(広報委員会委員・夫馬吉啓)



表彰式の様子



第5課題会場の様子



柘植副会長の講義

第71回 全国学校歯科医協議会



講演Ⅰ・岡崎好秀 客員教授



講演Ⅱ・森田学 教授

第71回全国学校歯科医協議会が岡山県歯科医師会の主催により、令和3年10月28日(木)15時40分からWEB開催された。第70回は令和2年に富山県で開催予定であったが、新型コロナ禍のために中止となり本協議会としては2年ぶりの開催となった。岡山県歯科医師会の黒木祐二常務理事の司会のもと、岡山県歯科医師会の小見山信副会長の開会の辞、岡山県歯科医師会の西岡宏樹会長の挨拶があり、このような時代だからこそ、それぞれのライフステージに関わることで本協議会の開催意義を強調された。

続いて、令和3年度文部科学大臣表彰受賞者48名の氏名が紹介された。

講演は、講演Ⅰとして国立モンゴル医学・科学大学歯学部岡崎好秀客員教授から、「子どもの口はふしぎがいっぱい」の演題で、講演Ⅱは、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田学教授から、「大学生の歯・口の健康に関わる要因」の演題で講演があった。質疑についてはメールでの問い合わせが示された。

その後、岡山県歯科医師会の木村里栄副会長から閉会の辞があり終了した。開催日は、全国的に緊急事態宣言は解除されていたが、コロナ禍により開催が危ぶまれた中、最善の方法で開催することができた。

なお、第72回全国学校歯科医協議会は令和4年11月10日に岩手県で開催予定である。



講演Ⅰ 子どもの口はふしぎがいっぱい 国立モンゴル医学・科学大学 歯学部

岡崎好秀 客員教授

40年を超える小児歯科臨床の経験に基づく子供の口に関する内容で、子供の診療に対する心構え、虐待・ネグレクトによる身体・口腔状況の悪化、孤食等が原因で起こる精神的な不安定さの解消のために家族が共に食事をする事の大切さを再認識してほしい。また、熱中症予防に用いられる経口補水液とスポーツ飲料の違いとその誤使用によって起こる弊害の解決も今後の課題である。

講演Ⅱ 大学生の歯・口の健康に関わる要因 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 予防歯科学分野

森田学 教授

学校保健安全法第二十三条により大学には学校歯科医を置く義務はないため、高等学校卒業以降は歯科保健の未開拓分野である。また、社会に出るとほとんどが自己責任で口腔の健康管理を行うことになる。しかし、大学・短大の進学率が58.1%であることを考えるとそれは無視できない学生数である。そこで、岡山大学学生に3年にわたり「独り暮らしになると口腔保健行動は変わるか？」など7項目の調査研究を行った。加えて、歯周病と低体重児出産のリスクについても調査を行ったのでその結果を発表する。大学生の口腔に関する基礎データは非常に少ないが、口腔管理の改善に対して専門家の関与が重要であることが結論付けられ、また、歯周病と低体重児出産の関連についても証明された。

(広報委員会委員・郷田 浩)

令和3年度 学校保健及び学校安全の功労に関する文部科学大臣表彰

学校歯科医48名 (敬称略)

北海道 岡田 次郎	山形県 鈴木 正憲	富山県 小森 実	大阪府 岡 重人	徳島県 佐々木 康夫
北海道 岡田 州司	福島県 小久保 俊一	石川県 岡部 浩一	大阪府 西本 達哉	香川県 馬場 純子
北海道 野村 和司	茨城県 若松 進治	福井県 毛利 勝洪	大阪府 松村 幸利	香川県 愛媛 石山 秀男
青森県 住吉 辰郎	栃木県 橋本 等	長野県 倉田 修	奈良県 藤本 吉孝	高知県 松田 安雄
岩手県 伊藤 篤	群馬県 渡邊 英明	岐阜県 小澤 隆幸	和歌山県 沖殿 正知	福岡県 辻 利貞
宮城県 今野 弘道	埼玉県 荻野 武克	静岡県 齋藤 暢夫	島根県 泉 成夫	佐賀県 福田 興造
秋田県 高橋 昭一	千葉県 宮坂 公明	岡山県 山根 隆	岡山県 石井 雅之	長崎県 朝永 公正
山形県 佐藤 有弘	神奈川県 横山 尚人	滋賀県 松原 寛	広島県 甲野 峰基	大分県 杉山 英俊
	新潟県 鞍立 暁則	京都府 亀田 哲也	広島県 黒瀬 信隆	宮崎県 押川 弘巳
	富山県 山田 眞樹	大阪府 福田 哲巳	山口県 山口 楊	沖縄県 外間 宏正